

花川病院

畠山 彩(ソーシャルワーカー/地域連携相談センター)

功 績 畠山さんは平成30年4月に入職し2病棟担当となりましたが、ソーシャルワーカーの仕事は初めてでした。5月に同じ病棟担当であったワーカーが退職し1名となりました。

先輩や上司の支援、病棟師長や医師にアドバイス・協力を受け、患者、ご家族、入退院調整など積極的に対応し地域包括ケア病床、医療療養病床は4月から満床、地域包括ケア病床対象者割合も8月から100%維持しています。

特に12月は高稼働180床満床、高い収益も達成しました。

患者さん、ご家族の対応、医師や病棟や在宅、施設関係者の調整など新人とは思えない仕事ぶりで、花川病院の稼働に大きく貢献した功績。

推 薦 者 丹羽すみ子(看護師/看護部長)

推 薦 理 由 2病棟は2つの病床が混在し、高稼働維持と2つの病床基準を満たすことは大変なことです。

畠山さんはまだ若くはソーシャルワーカーの仕事は、ほぼ初めての状態での入職でした。上司の支援を受けながら、病棟師長や医師の意見やアドバイスをうけ、患者さん、ご家族、地域関係者との調整など新人とは思えない働きでした。高稼働の維持、2つの病棟の基準の遵守などに大きく貢献しています。特に12月は180床満床と高い収益を達成しました。

内 容

畠山さんは平成30年4月に地域連携相談センターにソーシャルワーカーとして入職しました。

前職も施設でソーシャルワークの仕事でしたが、毎日が入浴など介護の仕事が中心で、2年間で当院へ転職しました。そのため、ソーシャルワーカーの仕事は初めての経験でした。

5月に同じ2病棟担当者が退職し1名になり60名全員を受け持つことになりました。

2病棟は医療療養30床、地域包括ケア病床30床で、医療度2.3割合50%、ADL3患者50%以上維持、地域包括ケア病床30床は60日の期限、看護必要度や在宅復帰率など2つの混在した病床の基準を遵守するために、MSWと病棟の連携はとても重要です。

畠山さんは同僚やセンター長からの支援を受けながら、毎週1回のMSWと病棟、リハとの打ち合わせ、日々の病棟師長や医師への入院相談、退院の調整、患者さん、ご家族の対応など毎日が一生懸命でした。

8月に1名入職し2名体制にはなりましたが、4月からの地域包括・医療療養病棟の平均稼働は満床、地域包括ケア病床の対象者は5月、7月を除いて100%、特に8月からは100%継続しています。

満床で2つの病棟の基準を維持することは大変なことです。畠山さんは新人とは思えない対応力と協調性で貢献しています。

また、前職で介護の経験もあることから、患者さん、ご家族やスタッフに対する視点も温かく、退院先や在宅調整にも活かされています。